

2017/2/10

(日々雑感 10)



よくテレビ番組なんかで、けちけち大作戦と銘打って、いくら節約したかを自慢したりするのがありますが、今貧乏になってみて思い返してみるとなんかとても違和感を覚えます。何に対してかと言うと、要するにいくら節約したかではなくて、関心の中心は「いくら残っているか？」の一点以外にないからです。

「ところで、あとなんぼ残っとんねん？」なのです。

足し算の世界ではなくて、引き算の世界なのです。

どんなに効率的に節約しても、お金を使い、そのお金が減っていることに変わりはないからです。

とにかく動くとお金が減る。外に出るとお金を使う。仕方なく一日中部屋で、ただ息をしているだけにしようか？みたいな思考になったりもします。

それでも、明日の事業を考えると動かざるを得ない訳です。それでやたら徒歩で動くわけです。靴底の減耗費以外はかからないので。

しかし、そんなにまで苦労して「ああ今日はお金を使わずに済んだ！」と喜んでいる矢先に、郵便受けに、どどーんと水道代請求書兼振込書とか電気代請求書兼振込書とかが投げ込まれていると、まるで真っ昼間に突然の押し込み強盗にでも遭って身ぐるみ残らずはがされたみたいな気分になります。

「一体何やねん、あんたら！！勘弁してんか！」

と腹が立ってきます。やり切れなくもなってきます。情けなくもなってきます。

きっとこれは、皆さんが税金の徴収に対して抱く感覚に近いのではないかと思います。税務署は皆さんにとって白昼出くわした押し込み強盗みたいなものでしょう？

と言いつつ最近、以前と考えることの次元がまるで変わってしまっていることに、自分自身かなり驚いております。